

FREE AWAJI BOOK 8890

特集：神田で遊ぶ
ちょっと楽しい、
寄り道ありますよ。



WATERRAS

人情・情緒を引き継ぎ
大きなコミュニティをはぐくむ
waterras.com

FREE AWAJI BOOK 8890 ツリ・アワジック 8880
2015.12.01 発行

発行：一般社団法人 読書エッセイ・マガジン
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町2-105 ツリ・アワジック 1311
Tel 03-3526-9883 Fax 03-3526-0090 www.waterras.com



編集：ツリ・アワジック株式会社 水代 優
www.goodmornings.co.jp

抹茶の苦味がクセになる

I'm happy!



GREEN TEA
RESTAURANT
1899
OCHANOMIZU

GREEN TEA RESTAURANT 1899 OCHANOMIZU

101-0062 東京都千代田区神田駿河台 3-4

TEL 03-3251-1150 FAX 03-3251-0270 <http://1899.jp/>

hang around on the way



今日も一日お疲れ様。

家に帰るまえに、ちょっと寄り道していかない？

なんにも考えずに思いっきり遊べる、

いい場所があるから。

Text Inoue Asako Photo Tsuchiya Koji



ポケットは手球と1～15番の番号がついたボールで遊ぶ



ナインボール・ゲームで酒井さんに挑戦。最初のブレイク・ショットから実力の差が…

ノスタルジーに酔いながら、玉突き勝負といきましょう。

JR中央線の線路沿いにある古いコンクリートビルの2階に、創業50年のビリヤード場「淡路亭」はある。「ビリヤード」と聞くと、暗いバーの片隅で、黒服のハスラーがキザにキューを構える…なんて姿を想像するけれど、ここはいうなれば昭和が香る「下町の球突き場」。窓の外を横切る中央線、壁に貼ってある色あせたポスター。白く光る蛍光灯の下で、普段着やスーツのお客さんたちがおしゃべりをしながら、和気あいあいとビリヤード台を囲んでいる。

1965年に創業した淡路亭だが、前身は100年

以上前から神田淡路町にあったビリヤードホール。そこを引き継いだのが、代表取締役の前田裕義さんの祖父だった。「たしか淡路町の交差点のあたりだったと思いますが、『淡路町ビリヤードホール』というのがあったんです。祖父がそこを買って、その時に『淡路亭』という名前になりました。淡路亭の「亭」は「ホール」という意味なんですよ。1985年に『ハスラー2』という映画が公開された時には、ビリヤードブームが来てね。開店前から学生さんが店の前に並ぶほど、若い人がたくさん遊びに来たそうです」。

looking for our playground

ここでぜひ挑戦したいのが「四つ球」という穴のないビリヤード。「赤・白・黄の4つの球を使い、手球を球に当てることで得点を競うゲームです。いまでは珍しいですが30年前まではこれが主流で、昔を懐かしんで喜んでくださるお客さんも多いです」と話すのは、ビリヤード歴15年のスタッフ・酒井さん。ビリヤード場には彼女のようなスタッフが常駐していて、キューの持ち方から教えてくれるので、初心者でも安心だ。実際にやってみると、だんだんと上手く打てるようになるのが楽しくて、これはハマりそうな予感。上級者になると酒井さんに勝負を挑む強者もいて、彼女も「喜んでお受けしますよ」と腕まくりして挑戦者を待っている。

前田さんはビリヤードの面白さをこう語る。「頭を使うところですね。球を突く場所や回転、どういう動きをさせるか考えながら打ちますから。でも体力はそこまでいらないし、ポケットは5・6人でわいわい楽しむことも出来るので、気軽に始められるスポーツ。神田はサラリーマンと学生の街なので、仕事や勉強が終わった後にちょっと立ち寄って遊べる場所として、これからもかわいがっていただければ」。今日もレトロなビリヤード場に、「カーン」という球突きの小気味よい音が響き渡っている。



淡路亭の三代目となる代表取締役の前田裕義さん



木の壁に古いポスターがなんともいいムード



淡路亭 ビリヤード場

千代田区外神田2-1-7

☎ 03-3253-1025

🕒 12:00 ~ 23:00 🗓 日祝

寄ってらっしゃい見てらっしゃい。ここが神田の寄席だよ！

名店が立ち並ぶ神田須田町に、去年10月誕生した「神田連雀亭」。神田の街に下町らしい活気を取り戻すべく「寄席を作ろう!」と立ち上がったのは、噺家の古今亭志ん輔さんだ。「このビルのオーナーが30年来の友人で、どうも夕方になると神田の街がさみしいと言うんです。ビジネス街として栄えたのはいいけれど、子供が走り回ったり、昔ながらの風景が無くなった。何か出来ないかと相談されてふっと閃いたのが、“二ツ目専門の寄席” だったんですよ。」「二ツ目」とは、噺家修業の過程で3段階目にあたるステージ。噺家は見習い、前座、二ツ目を経て、師匠と呼ばれる真打へ上がるというステップを踏むのだ。都内にはいくつかの寄席があるが、二ツ目が経験を積める場所は少ない。街ににぎわいを生み、若手噺家の鍛

錬にもなる。そんな場として連雀亭は始まった。

ビルの2階に上がると、一気に寄席の雰囲気漂う。席は38席なので、高座までの距離がかなり近い。公演は1日3回。昼は¥500の「ワンコイン寄席」と4名の噺家が出演する「きょうびら寄席」、貸席のない日の夜は「日替り寄席」と、一日中なかにか催し物がある。ところで、二ツ目ならでは落語の楽しみ方は? 「噺家を育てること。二ツ目の頃から最良を見つけて成長を楽しむんです。逆に真打になると興味がなくなったりね(笑)。二ツ目は若くて気さくだから、落語初心者にも親しみやすいんじゃないかな。女性のお客さんも多いですよ。」

二ツ目といえどもプロの噺家。マクラと言われる世間話が終わり本題に入った途端、パッと噺



実力派の柳家緑君(ろっくん)は「権助魚」を熟演。しなやかなおかみさん、とぼけた権助の演じ分けがお見事！

家のスイッチが切り替わり、張りのある声と表情豊かな語りでたちまち観客を惹きつける。伝統話芸のすごさを肌で感じる体験だ。飲食物の持ち込みも出来るので、昼はここで「落語ランチ」、なんてのも、粋な楽しみ方かもしれない。

連雀亭が街全体を盛り上げる存在になるべく、志ん輔さんはさまざまなことを構想中。「いまご近所の食べ歩き地図を作ってる。神田にはいい店がいっぱいあるから、もっと知ってほしいんです。来年からは子供たちに落語を教えたり、お祭りにももっと参加する予定。おかげ様で地域の人がずいぶん支えてくださってるんで、今度はお返ししたい。ここが毎日満員になって、来てくれたお客さんが神田で遊んで帰ってくれたらうれしいね。」



“連雀亭”の名前になぞらえて高座には雀の紋が



looking for our playground



「神田って、まず響きがいいよねえ」と志ん輔さん



神田連雀亭

千代田区神田須田町 1-17 加藤ビル2F

☎ 070-6565-8563

図・毎月1〜20日 (開場は各30分前)

11:30〜12:30、13:30〜15:00

19:00〜20:30

・毎月21日〜末日までの平日

11:30〜12:30、13:30〜15:00

※土日祝に関しては、直接お問い合わせ下さい。

図 無休

HANG OUT MAP

ぶらぶらマップ 2015

illustration Mougi Kazuya

A 11月18日(水)～ マーチエキュート「森イルミ」



神田川に架かる万世橋と、川沿いにあるオープンデッキを、ノスタルジーを感じる水辺に彩られたグリーンとピンクのイルミネーションで彩る。

・場 所：マーチエキュート 神田万世橋



B Solacity Winter Illuminations

イルミネーション 11月2日～ 2月14日
クリスマスツリー 11月2日～ 12月25日



- 神保町花月(お笑い)
- 神保町シアター(映画館)

空と緑が広がる駅前広場が、約5万個のシャンパンゴールドのイルミネーションで彩られる。地下1階に8mのツリーも出現する。

・場 所：御茶ノ水ソラシ ティプラザ



御茶ノ水 NARU
(ライブハウス・ジャズクラブ)



新御茶ノ水



B

淡路亭 ビリヤード場(ビリヤード)

B-PUMP TOKYO
秋葉原店
(ボウリング)



C 12月18日(金)～12月26日(土)

空中にて

東京藝術大学美術学部
絵画科油画専攻三年生
による展覧会。会期中
は子供も参加出来るく
す玉に絵を描くワーク
ショップやパフォーマンス・
ワークショップも。

- ・入場無料
- ・時 間 11:00～19:00
- ・会期中無休
- ・場 所
アーツ千代田 3331 1F メインギャラリー



AWAJICHO

麻雀倶楽部 岡(麻雀)

錯覚美術館
(美術館)

デボラ(ミュージックバー)



小川町



淡路町

D ～12月31日(木)

smbetsmb「relations」

紙という素材に対して異なる
アプローチを行った「given」と
「relations」を展示中。紙を折り
曲げることで生まれる形と色彩を
お楽しみください。smbetsmb/
アートディレクター、グラフィッ
クデザイナーの新保慶太・新保美
沙子のユニット。

- ・時 間 平日 11:00～23:00
土日祝 11:00～22:00
- ・場 所：ワテラスタワー 2F
cafe104.5



*アフターファイブに楽しめる場所を編集部が
独自にセレクトしました。

EAT LOCAL! ワテラスマルシェ 便り



ワテラスマルシェに集まる全国の「おいしい」を紹介

全国各地から生産者や出店者が参加し、その時の新鮮な旬が集まるワテラスマルシェ。今回ピックアップするのは、茨城県下妻市から色とりどりの新鮮野菜を届けてくれる「下妻ふぁーむ」と島根県出雲地域をはじめとした地方のこだわり産品を取り扱う「だんだん炉の食卓」。

どちらの店主も元氣とユーモアに溢れ、面白い物が楽しめること間違いなし。農家直伝のおすすめレシピなど、野菜の知識も豊富なので、ぜひ、積極的にコミュニケーションを取ってみたい欲しい。普段とは違った献立のアイデアがひらめくかも。



**下妻ふぁーむとだんだん炉の食卓が
登場するワテラスマルシェは…**

12月23日(水・祝) 10:00～17:00 場所:ワテラス広場・淡路公園

下妻ふぁーむ 茨城県

色とりどりの下妻野菜を堪能あれ!

映画「下妻物語」でおなじみの茨城県下妻市で収穫された野菜を販売している。鮮度へのこだわりが強く、下妻の契約農家からその時期の旬な採れたて野菜をその日の朝に集めて届けている。農業不遇で育てた安心安全な野菜ばかり。12月からは、鍋にぴったりの里芋、大根、白菜や、シチューにうれしい、キャベツ、にんじん、ブロッコリーなどが登場する予定。もしかしたら濃密な甘さが自慢のイチゴも出品できるかもしれないとのこと。「下妻のイチゴは毎年心待ちにしているお客さんが多いんです。ぜったいに食べて欲しい!」と店長の国府田さんもイチオシ。



だんだん炉の食卓 島根県他

産地のストーリーを 大切にせるセレクトショップ

島根県松江市出身の店主・曳野さんが、出雲地域の農産加工品をはじめとして、日本全国のこだわり産品をセレクトする。主力商品は、気候風土に恵まれた出雲ならではの良い水良い米から生まれる甘酒、宍道湖産のシジミ、生産量日本一である出雲産西条柿など。生産者のストーリーや思いを直接お客さんに伝えたいと、マルシェでの対面販売に強いこだわりを持つ。ぜひ曳野さんを訪ねて、これまで知らなかった地方産品の魅力に出会ってみてはいかが。



神田カレーグランプリ体験レポート カレーの食べ比べに5万人が熱狂！



老若男女、東京中から集まったカレー愛好家でこった返しの小川広場

© 神田カレー街活性化委員会



会場中にカレーの芳しい匂いが立ち込める



Text ワテラスチューデントハウス
養輪 美智子
(慶応義塾大学薬学部薬学科3年)

Photo Tsuchiya Koji

SPEAK OUT!

ワテラスチューデントハウスに暮らす学生が神田の魅力を内外に発信するコーナー。今回は、もはや神田の秋を象徴するイベントといっても過言ではない「神田カレーグランプリ」に潜入。例年約5万人が訪れるという、その魅力を体験してきた。今年で第5回目。神田エリアは300店以上のカレー提供店が集まるカレー激戦区であり、その中から神田カレー No.1 を決めるイベントである。事前に予選ファン投票が行われ、そこで決定した20店舗がメイン会場である小川広場に集結。カレーを食べ比べした来場者がカレー購入時に渡される投票券で投票し、グランプリを決定するという内容だ。程よいボリュームのカレーをいろんな店舗で楽しめるのが面白い。しかも、神田のカレー店は多種多様。本場のインドカレーはもちろん、欧風カレーにスープカレー、駅舎のまかないカレーまで登場するから驚きだ。会場内の福祉漬けの無料サービスコーナーもファンにはたまらな

い仕掛け。委員長の中俣拓哉さんにお話を聞くと、最初は地方のB級グルメを集めたイベントを小川広場で開催したのがきっかけだったそう。「地元のものがないのも寂しいからと、神田のカレー店にも出店をお願いしたら、それが一番ウケたんです。もう次の年からはカレーイベントになっていた(笑)。計画的だったわけではないんです」という。年々来場者が増え、会場も手狭になってきている印象を受けるが、やはり小川広場にこだわりたいと中俣さん。「カレーはもちろんですが、カレーをきっかけにこの街の他の魅力も知ってほしい。古本街にスポーツ街、楽器街、どこにアクセスするにも、この小川広場がちょうどいい。カレーはどれとも相性がいいですからね」しっかりと地元根差したイベントにしたいという中俣さんの強い思い。会場の熱狂とは対照的に、根底には、やはり神田らしい粋な心意気があった。



地元神田への思いを熱く語る中俣さん



取材を担当した養輪さん。ほうれん草カレーとココナッツカレーを食べ比べ！

WE ARE AAM!

Text ワテラスチューデントハウス
大貫 はなこ
(東京藝術大学美術学部芸術学科 3年)

Photo Tsuchiya Koji

神田住民が感動！ワテラスで生まれた本格派舞台。

淡路エリアマネジメント(AAM)は、イベントや情報発信を通じて、地域のみなさんの交流促進を行っています。

ワテラスマルシェやワテラスキッチン(料理教室)など、定期開催のイベントのほか、新しい取り組みにも積極的に挑戦しています。10月14日～18日には、気鋭の劇団「カムキヤッセン」と連携し、ワテラスコモンホールで演劇「リボンチャンス」を上演しました。「リボンチャンス」は、神田の街でも起こりうる、誰も覚えのある普遍的な家族の物語。チケットは連日ソールドアウト、会場は地域住民を含めた観客で大盛況でした。稽古の過程で、劇団員のみなさんは

神田に足繁く通い、街の空気を感じながら作品に向き合ってきたといいます。おすすめスポットや AAM の取り組みを紹介するムービーの制作・発信をして地域の方々とふれあったり、ぜひお近くの方にこそ足を運んでいただきたいという思いから「神田淡路町住民割引」を設定したりと、地域のみなさんへの「はじめまして」のご挨拶を兼ねて、さまざまな工夫をちりばめました。

「普段公演を行う小劇場では味わえない地域との交流があった。今後ワークショップなども主催して人と人をつなぐ一助ができれば」と劇団代表の工藤さやさんと主演を務めた小島明之さん。作・演出の北川大輔さんは「新

しいものと古いものが共存し、人が交差する場所であるワテラスコモンホールの空間の個性をいかに活かすかが醍醐味だった。今後、地域の人たちの橋渡しとなるような活動ができれば」と語ってくれました。AAMと「カムキヤッセン」の今後の共作活動がどのような広がりをみせていくのか目が離せません。

AAMでは賛助会員を募集中です。現在のAAMの賛助会員は、一般社団法人千代田区観光協会、株式会社龍名館、第一実業株式会社。今後も AAM は地域交流を盛り上げる活動にご賛同いただける企業、団体と連携しながら、様々な交流の機会を提供していきます。



神田の空気を大切にしたいという演出の北川さん



観賞後に劇団員と交流するお客さん達



演目の合間を縫って取材に協力してくれた工藤さん(左)と小島さん(右)。取材を担当したのはワテラスチューデントハウスの大貫さん(中央)